

軍令部

供覽

軍務

266895

三月十一日



戦時日誌

992 381  
大正三十七年  
三月三十一日  
航ヨリ明治三十七年  
至

軍艦春日

軍令部

0004



戰時日誌

伊太利<sup>イタリヤ</sup>より横須賀<sup>ヨコスカ</sup>面航<sup>めんかう</sup>記事、海軍中佐鈴木貫太  
郎、軍艦春日<sup>かすひ</sup>回航報告<sup>かいかうほうこく</sup>を以て之を充つ

明治三十七年二月十六日 海軍中佐 鈴木貫太郎

本官本年一月三日伯林<sup>ベルリン</sup>ヲ護<sup>まも</sup>り翌日伊太利<sup>イタリヤ</sup>ニ到着上松尾艦船大監  
ニ面会<sup>めんかい</sup>シ初<sup>はつ</sup>マ<sup>は</sup>春日<sup>かすひ</sup>日進<sup>にっしん</sup>兩艦<sup>りうかん</sup>急速<sup>きゅうそく</sup>艦装<sup>かんさう</sup>模様<sup>ようよう</sup>ヲ利大佐<sup>りだいてい</sup>ト  
ト間<sup>ま</sup>ニ締結<sup>ていかつ</sup>セラレタル兩艦<sup>りうかん</sup>回航<sup>かいかう</sup>間<sup>ま</sup>ニ約定<sup>やくてい</sup>並<sup>なら</sup>ニ兩艦<sup>りうかん</sup>ガ商船<sup>しょうせん</sup>旗<sup>かた</sup>ヲ掲揚<sup>かていよう</sup>シテ出港<sup>しゅつこう</sup>  
スル困難<sup>くわんなん</sup>ル事情<sup>じじょう</sup>等<sup>ら</sup>ヲ間<sup>ま</sup>知<sup>し</sup>レリ依<sup>よ</sup>テ松尾<sup>まつお</sup>大監<sup>だいかん</sup>若<sup>わ</sup>本<sup>ほん</sup>大佐<sup>だいてい</sup>等<sup>ら</sup>ト相談<sup>さうだん</sup>上<sup>う</sup>庫<sup>く</sup>  
艦旗<sup>かんかた</sup>掲揚<sup>かていよう</sup>出港<sup>しゅつこう</sup>ニ一決<sup>いつけつ</sup>シ翌<sup>あした</sup>五日<sup>ごにち</sup>より兩艦<sup>りうかん</sup>ノ工事<sup>こうじ</sup>ヲ視察<sup>しつさ</sup>セリ

間<sup>ま</sup>ク所<sup>ところ</sup>依<sup>よ</sup>テ兩艦<sup>りうかん</sup>ノ艦装<sup>かんさう</sup>工事<sup>こうじ</sup>少<sup>すく</sup>シニ二月<sup>にがつ</sup>ヲ要<sup>を</sup>スル者<sup>もの</sup>トモ時局<sup>じきよ</sup>ノ許<sup>ゆる</sup>マシヤレセシ

録 五

0006



本艦乗組リ

本艦二月七日彈藥ノ搭載後事レ今日午後五時造船監督官アシヤ上倉社  
ヨリ領収手續ヲ了セリ今夜半ヲ以テ総ケノ工事ヲ中止シ八日朝八時小官待乗  
艦後同モ無クシテ外港ニ出テ羅針ノ修正ヲ具フ續テ彈藥ノ搭載ヲ了セリ  
四航負艦長士官及水文等英國人ニ七日夜半來着ニテ直ニ乘艦シ械閣長  
及械閣部員各伊太利人ニ今夜乘艦シ聖朝航海準備ニ着手セリ當時  
甲板諸種ノ物品糧食山ヲレ其混雜名状スニカラザリテ諸員熱心ナル努力  
依リ八日夜半ニ至テ晝航海準備ヲ了レ械閣ハ運転ニ差支ナキニ至リ  
八日夜半彈藥ノ搭載ヲ了レテ刻モ猶豫スニオモハル時械閣ヲ以テ其  
搭載ヲ中止シ九日午前四時械閣出港ス  
出港後約二時間ニシテ尤艦械中央イリシターピストンノコッキング熱焼シタルヲ

以テ其ノ運轉ヲ中止シ右舷機ノミヲ以テ全速航走スルヲ三三時間及ビ九日午前  
 五時ニ至リ左舷機ヲ修理結了シ兩機ヲ以テ航走スルヲ得タリ(但此間右舷機  
 ノミヲ以テ尙ホ速力土節四五ヲ得具フ僅ニ五度ノ航角ヲ標スル直進スルヲ得タリ)  
 十五日午後二時那威ノ殊習艦ニ遭ヒ日露開戦ノ布告アリシヤ否ヤ同ヒ承タリ其ノ布  
 告キキ答ヲ得タリ

一月十三日午後七時ポートセントに着セシニ日進未ダ着セズ露艦オールの及ビ肥後艦  
 五艘先ツ当地運河内ニ入り同夜九時ヨリ翌十四日午前三時迄石炭百半噸及清  
 水ヲ搭載シ舟時露艦ニ告グテ敷島ヲ解キ運河ニ進航シ約十五時間ニシテ運河  
 ヲ通過シ午後八時半「スエズ」に着ス

「スエズ」ニ露艦ヲ見トリドンスコイル先ツ繫泊シ本艦ニ其ノ隣ニ浮標ニ敷島留シ  
 直ニ石炭搭載ニ従事セリ

0009

十五日炭量三噸ヲ搭載シテ了リ午前十時浮標ヲ離レ進航ス此日日進二午前十時  
エズレ著セシテ以テ竹内大佐ヲ訪問シ途中ノ状況ヲ報告スルヲ得タリ

十六日午前十時日進本艦ヲ航過ス、本艦ハエズレ出港以來速力甚ク遅緩ナリ  
カ其ノ源因運河通過際泥砂ヲ引込シテ内ニ吸込シタルニ依ルヲ発見シ是カ終  
端ヲサセト索モ猶速力充分ナラズ依テ全艦ニ炎火シ航走セシモ尚速力十三節過  
クル能ハザリシ

十八・十九日紅海南部於テ強ク逆風ニ出會セリ二十日午前十時半アデンニ着キ外  
港、碇泊シテ直ニ石炭及清水ノ積入ニ着手シ十五時間ヲ九百九十噸ノ石炭ヲ搭載  
セリ

二十日午前十時三十分出港爾後海上頗ル平穩且全艦ヲ使用セテ亦猶充分ノ速力  
ヲ得ル能ハザルガ爲メ平均約十四節ノ速力ヲ得ルニ過ギザリシ

二十七日午後三時半、ゴンボレ着ヒテ浮標ニ繫泊シ直ニ炭水搭載ニ従事シ具械  
関及洗籠ノ掃除ヲ行フ当港ニ於テ日進先ヲ来着シ居レリ。

二十八日石炭約八百噸ノ搭載ヲ終リ午後八時半出港ニシテゴンボレニ向テ航海  
於テ全罐ヲ使用シ前回比ニ稍良好ニ速力ヲ得リ

二月二十日午後二時、ゴンボレニ着外港ニ投錨ス所要石炭量五百噸ノ豫報ヲ改

メ千三百噸ノ注文ヲナス (三井物産會社支店)

三日朝石炭搭載ニ着手セカ頗ル緩慢ニテ終日僅ニ百噸ヲ積入レシメラス

午後五時頃ニ至リ人吏等突然ノタイクヲオレ積入ヲ中止セリ依テ三井支店ニ交

渉シ終夜奔走セケタルノ結果翌朝朝ヨリ二百五十人ノ人吏ヲ以テ再々石炭搭載

ニ従事ス至リソト密モ具ノ働作頗ル緩慢ニテ身ヲヒタキ百九十噸ヲ搭載シ

テ得テ此ノ間稍々波浪アリ爲メ四日夜石炭船動搖ノ爲メ水雷發射機ノ

0011



ボートヲ破損シテ以テ翌九日横濱部員之カ應急ノ修理ヲ行ヘリ

六日前一時日進ト共ニ出港十二節ノ豫定速力ヲ以テ航行ス

八日強烈ナル北東ノ風ニ會シ午後三時終ニ後部特等室ノ砲門ヨリ波浪ヲ打

込ニ續テ前甲板右舷ノボートヲ洗ヒ去リ依テ速力ヲ減ジ微速力ヲ以テ進航ス

又此ノ時ヨリ日進ノ航跡ヲ失ス

九日ヨリ十日ニ至ル間風浪尚ホ激甚ナリレガ十二日臺灣附近ニ達セシ頃ヨリ

漸ク平穩ニ歸セリ依テ全艦乗火シ大ニ速力ノ増加ヲ計レリ

十六日正午横須賀ノ入港第ニ浮標ニ繫留ス (終)

0012

明治三十七年二月十六日(横須賀)

横須賀入港第一豫備艦下定々々全定負ヲ置カレ

同十七日(横須賀)

田航員以外國人退艦内電信枝手伊國人二名残留

艦長以下艦員乘艦引渡ヲ受ク

同十八日(横須賀)

需品糧食ヲ搭載ス

同十九日(横須賀)

前日引續キ需品糧食ヲ搭載シ終ラ午後四時出港出港向テ

同二十日(航海中)

午後六時紀州南端ヲ繞リシ後南西風ニ共テ力ヲ増シ風力甚至七達ス

0013

同二十一日(航海中)

午後三時足摺崎ノ南西十哩地ニ至リシニ風向北西ニ急変シ同夜時北ニ変ゼシモ其ノ力尚六ノ下ニ至テ今十時豊後水道ニ入リシヨリ漸次風力ニ乃至ニ減衰セリ

同二十二日(今)

午後二時三十分兵庫港ニ入港

同二十三日(兵庫港)

兵庫艦隊第三九号ヲ以テ左ノ命令ヲ傳達セシム

春日此ノ際戦闘航海ノ役務ニ堪ヒ得ルヲ目的トシテ大至急ニ事ヲ以

テ竣工セシムヘシ

修理工事ニ着手ス

二十日第二船渠ノ晒所ヲ借受ケ本日ヨリ同所ニ於テ炊事ヲナス

0014

海 軍

同二十四日(全)

午後二時三十分入渠

材料庫倉庫ヲ借受ケ搭載需品糧食ヲ之移ス

同二十廿日(全)

同二十廿六日(全)

同二十廿七日(全)

同二十廿八日(全)

0015

同 三月九日 (全)

同 三月一日 (全)

警備艦定メル

同 二日 (全)

呉鎮命令第二号ヲ以テ先ノ電命ヲ傳達セル

春日ノ者分内艦隊ニ編入シテ依テ呉軍港附近ニ在テ專ラ諸種訓練ニ従事セシメ可成速ニ熟練ノ度ニ達セシムヲ期スヘシ又第二種炭格載量ニ常ニ十海里速力ヲ對テ三晝夜分以内トスヘシ

同 三日 (全)

呉鎮命令第二号ヲ以テ先ノ電命ヲ傳達セル

0016

春日、既ニ電訓及ヒルヲ第一種炭外英炭ヲ滿載シ出征ノ目的以テ諸準備ヲトシ置クベシ。

同 四日(全)

戰戰準備ノ為メ不用炭ヲ陸揚ケル豫備艦部倉庫預メ

同 五日(全)

被服ヲ搭載ス

同 六日(全)

出渠糧食需品ヲ搭載ス

同 七日(全)

前日ニ引続キ糧食需品ヲ搭載ス

同 八日(全)

0017

同 九日(全)

石炭ヲ搭載ス

同 十日(全)

彈藥ヲ搭載ス

同 十日(全)

略各部修理工事竣成彈藥積方ヲナス前日同

同 十日(全)

陸上駒所ヲ撤シ本艦駒所ニ於テ炊事ヲ始ム

彈藥積方ヲ終ル艦内掃除整頓艦体検査ノ計測生港諸準

備諸配置訓練ヲ為ス

0018

同 十三日(宮島)

午前七時兵艦出帆宮島附近於永留試射內筒砲射撃ヲス

同 十四日(甲島附近)

早瀬戸鳴瀬附近ニ至リ撃筒十時砲射速試験ヲス故障アリ為

同日豫定如少艦砲命中射撃ヲ去能ニ甲島附近ニ至リ仮泊

同 十音(兵軍港)

甲島附近於艦砲命中射撃ヲス終テ高速力流走試験ヲス兵

歸港 此日尤舷に横半折墜落ニテ士卒ヲ余名海中落チシモ

幸ニ死傷者ナシ

同 十音(全)

午後一時五分日進入港

0019



大至急十时砲修理着手

同 十七日(玖波)

午後一時五分出港甲島附近於十时砲試發射ヲ去、再ハ故障  
アリ玖波入港内筒砲射撃ヲ為ス、

同 十八日(吳軍港)

午前十時五分出港同八時五分吳軍港直十时砲陸揚着手

同 十九日(玖波)

十时砲陸揚ヲ終、午前十時五分出港午後〇時七分玖波着内  
筒砲射撃ヲ為ス、

同 二十日(全)

午前十時四分出港甲島附近於第一期教練射撃ヲ終ラ

0020

玖波：歸港内筒砲射撃ヲ云、

同 二十日(兵軍港)

午前内筒砲射撃ヲ云、午後一時出港同三時五分入港

同 二十日(全)

十時砲ヲ搭載ス、

同 二十日(玖波)

午前六時五分出港甲島附近於二十時試飛射ヲ云、結果良好ヲ續  
テ勃豫海峡於二十時砲八時砲、仰角發射ヲ云云

十時砲 二十度 仰角一回

二十度 二

八時砲 十五度 二

0021

二十度

終ラ午右三時七分玖波ニ入港内筒砲射撃ヲ支

同 二十四日(玖波)

午前七時五分出港甲島附近於テ四十七密砲第一期教練射撃ヲ

支シ終テ玖波ニ入港内筒砲射撃ヲ支

同 二十五日(玖波)

午前七時五分出港時差修正回轉圏情ヲ測定ヲ支終テ玖波

碇泊

内筒砲射撃ヲ支テ前日ニ同シ

同 二十六日(同)

午前八時五分出港 姫子島ヲ目標トシテ第二期教練射撃ヲ支終テ

海 匡

0022

ヲ玖波・碓泊内筒砲射撃ヲ去

此日日進午後零時三十分玖波ニ入港ス

同 二十七日（吳軍港）

午前七時宇舟ノ蒸汽ヲ取入ニ付、隣シヨリトシテ、

ロツ附属ノソツジ切斷シ、右舷三番甲七番砲台上、墜落シ、

ソレ標海燈震動ノ為メ甲板落下シ、全ク粉砕シ、蒸汽海中墜落シ、

中甲板ノ六吋砲ニ觸レ艦部ヲ大破ス、然レモ幸ニ死傷者ナシ

同九時早五分出港十一時五十分吳ノ歸港

同 二十一日（同）

石炭積才ヲ為ス午後六時日進ノ入港

同 二十九日（同）

0023

彈藥並に離水搭載

同 三十日 (全)

同 三十一日 (全)

午前夜中戦闘水雷艇防禦哨兵配置操練ヲス。  
午後火災操練ヲス。

0024

四月一日(岩島)

午前七時半界出港。姪子島附近に於て戦闘射撃を午後一時十分迄行はせしむ。此夜戦闘練習水雷艇防禦操練あり。

同日(呉軍港)

午前八時十分出航。同日十七分呉に帰港。半艇上陸小銃射撃を半艇に在りて行はせしむ。

同日(全)

艦内大掃除あり。

同日(全)

下士官進級會議あり。

呉鎮守府司令長官より本訓令あり。

0025

其艦第三艦隊ニ編入セシメラル付テ準備整ト次第竹敷要港面

航セシムヘテ首軍令部長ヨリ電訓アリ以テ首心得ベシ

同 五日(全)

午前十時四分總負整列勅諭奉讀終テ御真影ヲ拝ス

同 六日(航海中)

午前九時十四分出港兵鎮守府司令長官ヲ始盛ヲ見送リ

午後五時五分合戦準備ヲス

同 七日(航海中)

午前七時水雷艇防禦操練ヲナス夜入り四直哨兵ヲ配置ス

同 八日(航海中)

午前八時五分尾崎港投錨

0026

午後六時三十分出港準備ヲ整ヘ艦長來艦セリノ旗信アリ  
尤ノ命令アリ

責艦ニ日進ヲ率ヒ直ニ第二集合地矣ニ回航ニ東郷司令長官  
ノ指揮ヲ受ケル

午後八時四十分出港日進機械ニ故障アリ港外ニ之ヲ待テ

全 九日(巨文島)

柁曉港内ヲ望ミ日進ノ既出港セルヲ發見シ直ニ前進ス午前四時四十分進ニ日進ヲ認ム同十時四十分日進ニ會ス

午後三時四十分巨文島ニ碇錨

同 十日(航海中)

午前六時三十分出港午後四時五分陸軍運送船舞鶴丸右舷ヲ反航ス

0027



同 十日(葛川角)

午前十一時三十分葛川角に投錨

同 十日(航海中)

午前十一時十分余に依り第一戦隊に列り出港

同 十日(全)

第一戦隊に列り旅順に攻撃從事ス、以戦始ノ敵ノ主力艦隊港外に在

リ我第一戦隊に砲火ヲ交シテ以テ第一戦隊に直ニ敵ニ想戦セントシテ迫

ルニ彼ニ退却ヲ始メ、竟ニ港口ニ至リ其戦艦一或ニ我布設水雷

リクルモノ、如シ

午後零時三十分我艦隊、我副旗ヲ撤シ旅順港外ヲ去ル

同 十四日(航海中)

午前十時四分海洋島津ニ至リ投錨午後五時七分台航再々旅順  
口ニ向ス

同 十九日(全)

午前八時旅順港外ニ達シ今八時七分本艦並日進列ヲ離シ老鉄山  
燈臺附近ニ至リ港内ニ向ケ間接射撃ヲ去、此間敵モ亦我ニ向テ  
発砲セシモ一モ我艦ニ達セズ

午後零時七分射撃ヲ止メ本隊帰レシノ命ニ接シ本隊ニ合旅順  
港外ヲ去ル

同 十六日(航海中)

午後一時三七分葛川角ニ帰着午後六時命ニ依リ出航

同 十七日(全)

0029

午後七時一商船我左舷ヲ反航ス、

同 十八日(鎮海湾)

午前九時赤須磨丸船ヲ反航ス又同時艦首一奥一洗船ヲ見ル、

午後零時三十分鎮海湾ニ投錨

同 十九日(全)

同 二十日(航海中)

午後三時十分出港元山津向ス

同 二十日(全)

同 二十日(元山津)

0030

午前七時五分航機故障あり二十分後復し同六時四十五分南東に  
汽船ノ黒烟ヲ認ム今七時五分航機故障あり列外出航シ  
直ニ復シ列ニ入ル

午前九時八分元山津に投錨

同 二十三日(航海中)

午前八時五七分港浦塩に向つ同十時十分濃霧来り同五十五分晴ル

午後二時五十分濃霧再来り今十一時晴ル

本日午後附夕時第一戦隊に編入セル

同 二十四日(全)

午前八時五分再濃霧ヲ生ジ之より時々稍々霽ルルイラス直ニ  
濃霧襲来ス

0031

同 二十音(全)

濃霧晴ルヲ以テ元山津ニ向テ帰航ス

同 二十六日(松田湾)

午後零時四五分元山津ニ投錨敵艦三隻水雷艇ヲ卒ニ昨ニ音元山津ニ来リ商船一隻ヲ撃沈シ去リテ情報ニ據ル又當地ニ在泊スル金丸ヲ認メタ

午後一時五分敵艦手ヲ空砲三発敵艦見テテ信号ヲ次ニ同ニ時敵艦見テ我第ニ艦隊四隻ヲシテ投見ス二時三分千早山港同四十五分十一艦隊入港同四時十五分同隊再ニ出港六時四十分我隊松田湾ニ錨地ヲ更ニ本隊亦同七時松田湾ニ錨地ヲ移ス

同 二十七日(航海中)

午前六時半分香港南の浦塩へ向つ午後一時三分馬養島南東  
約三澤海上に石炭搭載用足場が及有塗、船材、如き、漂流  
少認め、霞之が採収、為ノ例外ニ出づ午後三時霞本隊帰、船具ヲ採  
収シト信ス

同 二八日(航海中)

午前十一時三分對馬丸船械後水械故障、修理、為ノ佐右保、向テ  
南航ス

此ノ日、スイキ、ギーム、及、フ、バ、ラ、ヲ、繼、首、出、シ、雷、械、水、雷、ヲ、排、除、爆、発、セ、シ、人、装  
置、ヲ、作、ル

午後一時三分水雷艇一隻日光丸ヲ洋中、於テ石炭搭載、同、時、五  
十分駆逐隊水雷隊隊水隊、南、浦、汐、襲、撃、ヲ、向、ス

0033

同 二十九日(航海中)

午前一時五分濃霧至ル三時七分晴ル六時十分駆逐隊水雷艇隊各  
大同五十五分旗信依リ戦闘部署就キ休憩午前九時五分日光  
丸水雷ヲ沈置ス次デ高千穂水雷ヲ沈置ス十時五分旗信依リ  
戦闘部署ヲ撤ス

同 三十日(松田湾)

午前七時五分瑞舟一隻浮流ルヲ發見ス萬千穂之ヲ擧取ス  
午後五時五分松田湾に投錨

0034

九月一日(松田湾)

午前六時五分早出港

同 旨(航海中)

太郎丸より石炭搭載より午前九時六分旗令降り石炭搭載方中止ス

午後一時五分出港鎮海湾へ向ス

同 旨(全)

午後一時五分旗令より水雷艇蔚山港へ向ス同六時五分諾威国海軍電信布敷船丸船ヲ反航ス後暫クシテ又丸船一船ヲ認公蔚山根拠地ノ諾威ノ捕鯨船トシテノ説アリ

0035



同日(鎮海湾)

午前八時才舟滿珠丸九船ヲ反航ス同九時七分鎮海湾ニ投錨同十一時十分才太郎才舟石炭搭載シ始メ午後六時四分石炭搭載積ヲ終ル  
午後四時才舟日光丸出港

同日(昔尾崎湾)

午前五時四分出港午後三時三十分尾崎湾ニ投錨

同日(首尾崎湾)

午前洗濯午後内筒砲射撃ヲ行

山川才尉候補生病氣ノ為メ昨敷要港部病室入室ス

同日(七日(金))

0036

午前大掃除午後内筒砲射撃ヲ去。

同 八日(今)

午前薩軍舟出港哨艦ノ任務ニ服ス午後四時旗信ニ依リ帰港ノ途就  
ノ同四十三分尾崎灣ニ投錨命ヲク同七時十八分出港聯合艦隊  
前進根拠地ニ向ス

同 九日(航海中)

午前六時七分陸軍運送船信濃丸先艦ヲ反航ス午前十銃分鮮舟  
入信号積古ヲ去午後照準積古照準射撃ヲ去  
晨ニ機械水雷排除用トシテ作リシ不バシク收貯シテ誤テ其ノ一者破折ス

0037

同日 (航海中)

午前九時五分同十時三分航機故障あり停止シテ之が修理ヲ去。十時三十分修理成リ前進ス。午前信号積去午後砲術水雷術練習ヲ回航軍討死石炭消費額ノ試験ヲ去。

同日 (裏長山列島)

午前七時五分裏長山列島錨地投錨

午後六時半分旗信了敵ノ駆逐艦港口ヲ出不敵警戒者。

同日 十音

三等ヨリ九ノ旗信了

其艦三戦隊ト共旅順ヲ閉鎖配備就ク爲メ出発セシム。

第三戦隊司令艦ヨリ九ノ旗信了

0038

本隊の旅順閉鎖配備就、為、本夕出港を豫定但、淺間高砂  
ヲ除キ春日富士如

出港時ヨリ艦隊區分ヲ歲一番吉野二番春日三番八雲四番富士  
五番一番二番第三隊三番四番第五隊午後六時三十分出港厚達力八  
哩

午後一時五分三笠艦載水雷艇、旅順丸、衝袋、水雷艇其腹部破  
之同三時五分高木軍令部參謀本艦、便乘午後三時五分出港  
同 十三日(航海中)

午前七時三十分九龍ノ二隻右艦、二隻ノ水雷艇ヲ認ム、馳逐隊水雷艇  
隊ヨリ異状トシ、信号アリ、同七時十分旅順港口、敵艦五六隻ヲ認同、四時  
五分、敵艦二隻出港外三、出ヅト信号アリ、午後二時敵ヲ馳逐艦六隻ヲ洗

0039

日認同時四時之ヲ黄金山下認同時六時五分我馳逐艦八隻水雷艦八隻无  
能ハ少認ム。

同十一時五分風力稍増加レ里雲天ヲ蔽ス。

同 十四日(全)

午前三時五分旅順港日標照燈光ヲ認同時四時五分馳逐隊水雷艦  
隊會々午後零時五分饅頭山砲台下敵馳逐艦四隻ヲ認同時六時五分  
我馳逐隊水雷艦隊會々。

同 十五日(全)

午前一時十分濃霧起ル暫クシテノク見張候補生右舷艦首約  
四度日標照燈光ヲ認見有テ屆ク即チ面舵十度ヲ取リ前續艦尾ト下  
ス然ル暫クシテ尚他日標照燈光ヲ認見有テ直ニ取舵一杯後退全速ト令

0040

同時軍舟吉野ノ九船大橋ノ下ニ後方ニ衝突ス同甲五舟併止標海燈ヲ曳クニ時十舟カクシテ降レ救助ヲ為シ出飛セシム同時ニ標海燈ヲ曳ク同四  
十舟吉野ヲ避難セシカクシ一隻来ル避難人負ク本艦ニ収容レ爾レ救助  
ヲ為シ出飛セシム三時四分ニシテ下ニ救助ヲ赴カシ三時五分九船錨投  
ガ更ニ流ヲカクシテ出レ救助ヲ為シ出飛セシム

水深 三六尋

底質 泥

錨鎖 七節

推測位置 北緯 三度 十分  
東經 百三度 三分

午後四時遼流物人負本艦ノ九船側ニ流レ来ル直ニ収容ス同三十分  
ノ三隻帰艦ス本艦カクシ三隻ニ更ニ出飛救助ニ從事セシメ吉野カクシ

0041

引索ヲ附シ艦尾ニ撃テ五時航海燈ヲ撤ス同五十五分探海燈ヲ消ス七時  
 早舟ヲヒンチニシテ搜索ノ為メカギシ一隻ヲ生スヲムレ破損ノ箇所ヲヨリシヨシ  
 三トヲ以テ搜索ヲ赴ケルカギシノ歸艦ヲヒンチニシテ六十分歳ニ收巻モシヨト報  
 アリ同七時ヨリ或ル間隔ヲ艦船番号ヲ鳴ス一番艦ニ五番艦之ニ想ヒルモ  
 四番艦ノサトニシテ聞カズ霧ニ或ル時ニヤ零ルニモ又暫時ニ多濃厚トシ目光  
 朝来離氣ニ之ヲ見ル同十時十分千歳丸艦尾ヨリ接近シ来テ認  
 ムニ十分我丸艦ニ来リ停止文信ス霧々晴ル十一時十分右艦ヨリ左艦  
 へ微航シ来テ認ム同十一分起錨午後〇時十分八雲ヲ右艦ヨリ左艦ニ認  
 ム之ヨリ先々原速ヲ出シ七十分ヨリ慢水ニシテ以テ半速トス二時十分旗信  
 ニ依リ本艦同航ノ命ヲ受ケ單縦陣ヲ作ル三時十分旗信ニ依リ針路ヲ  
 北東ニ変レ海洋島ノ東方ニ向ヒ千歳富士別ル六時十分

0042

投錨後泊ス水深三十尋底質粘泥錨鎖六節同五十三分八雲錨  
鎖切斷同八時十分八雲次第遠カリ終ニ艦隊ヲ認メザルニ至ル  
艦ヲリノ命令尤ノ如シ 旗

敵ノ駆逐艦夜龍表ニレヤ知レザル就キ針路ヲ海洋島東方ニ持リテ刻  
便且碇泊明日根拠地ニ来レ碇泊ス其ノ位置ヲ知ラセ

後泊樵測位置尤ノ如シ

東經百二十二度五十分

北緯三十八度四十分三秒

同 十六日(航海中)

午前十時五分霧稍ニ晴レ暫時ニ多ク八雲ヲ認メ得ル至以同五分出航  
十一時十分濃霧雨来ル午後十時十分投錨水深三十尋底質

0043



泥錨鎖六節推測位置北緯三十八度半二分  
東經百三十三度半二分同六時十分霧晴西南西  
西千九百米突ノ距離八時ヲ認ム七時五分西北西一萬三千乃至一萬  
五千ノ距離富士千歲笠置ノ三隻ヲ認ム同七時四十分富士長山列島  
方面同九時六分燈无ヲ右舷中央正横及左舷艦首約三島ノ  
處ヲ認ム

同 十七日(裏長山列島)

午前七時十分濃霧北方より来リ三百米突以外不明認ム能ク同七時十分霧次第晴レ八時ヲ認得ル至リ風力稍々加ル同八時五分後錨  
八時三十分霧雨より来リ九時十分晴ル十時帆揚島ヲ東北東に見ル北  
微西四分二西変針午後〇時五分根柢地碇泊艦船ヲ認ム一時半  
四分裏長山列島錨地ニ後錨同十分曇レ吉野ノ救助ニ赴キ千歲

0044

収容セラレタルイロハニ時五分工作船ヨリ職工来リ潜水ヲムテ檢  
査ス六時五分艦体修理ノ為メ風ヲ受ルル少キ位置ニ錨地ヲ楯ニ

同 十八日(裏長山列島)

午前八時五分吉野ノ収容人魚ヲ台北丸ニ送ル同四十分吉野溺死者  
遺体ヲ火葬ノ為メ陸ニ送ル十一時頃ヨリ風力漸加ス

同 十九日(全)

午前一時十分風力稍々和シ其力ニテヨリ風向西北西ニ變テ同三時風力南  
漸加ス

本日附ヲ以テ第土戰隊ニ編入セシ本第艦隊司令長官ヲ九會  
受ク

其艦速ニ出発兵ニ至リ全速力航行ニ堪得テ程度ノ應急修理ヲ

0045

施之終ヲ本隊・合スル

同日(航海中)

午後一時三分出港吳港・向同幸九分回航四十分(原速)二時十分  
島海右舷ヲ反航ス

同日(全)

午前午後共當直各科雜業非番直砲術水雷術練習ヲ施行午前  
八時五分回航ヲ増シ四十分午後一時五分回航ヲ減シ四十分去三時十分  
先艦ハ少約一頃永平線ニ煤烟ヲ認同四時十分曇ク煤烟ニ諾威因  
汽船 *Quinted* 七ノ認同其ノ行先ヲ尋覓シ芝罘ニ向クモナリト巷不同十一  
時霧未リ暫時多晴同五分再ニ龍巻未ス

同日(航海中)

0046

同日午前六時十五分濃霧散ハ八時七分ヨリ岩ヲ左舷正横六深半見尚  
二分黒山島ヲ左舷艦首ニ奥七深見ル九時十分左舷正横煤烟ヲ認  
ム後其ノ伊豫丸北行スルヲ発見ス九時三十分回転四十分同早  
二分黒山島ノ東南端ヲ左舷正横見テ南東ニ変針ス午後七時  
十分濟州島漢羅山ヲ南東イ東左東方ニ認め

午後五時十分絶自集合艦長吉野ト衝突シテ付テ何後我乗  
組員ノ去ベキ覚悟ニ付テ訓示アリ同六時半五分バルコニー島東端ノワッ  
生蘆セル汽船ヲ認め該船ニ西方ニ向テ乗上テ艦首稍々沈下レ艦約三分  
一坊レ去レルモノ如シ烟突一個黒色ニシテ大ナル方ナリ前橋ニ存レ一個橋  
桁ヲ有ム黄土色ニ塗ラリテ端艇一隻モ之ヲ認め絶ニ激浪ニ沈ルヲ  
認めテ七時半分ギンブアト島ヲ北東ニ東ニ深四分ノ一見テ針路ヲ南

0047

東和東之變

同日 三音(航海中)

午前一時三十分右舷<sup>右</sup>汽船ノ航行<sup>ノ</sup>認ム、午前午後共當直雜業非番直砲術水雷術練習ヲ施行午前七時女島ヲ東北ノ東ニ認ム距離約十里午後四時三十分霧来ル五時晴ル同六時飢島ヲ右舷艦首約三英里ニ認ム同七時三十分飢島釣掛岬ノ燈臺ヲ東見テ東南東四分一南ニ變針ス八時三七分釣掛岬燈台ヲ左舷正横ニ見テ通過ス

同日 三音(航海中)

午前四時五十分佐多岬燈台ヲ船正ニ見ル九時都井崎ノ望樓ヲ左舷正横ニ見テ通過同早介大島燈台ヲ左舷正横ニ見ル午後七時三十分水ノ子島燈台ヲ左舷艦首ノ東ニ認ム同八時鶴見崎ヲ左

通信ヲス。

吳鎮守府ニ電報ヲ奉リ春日明日午後三時着豫定直入渠楨  
處ノ検査ヲ請フ那沙見ノ見張多都合同ス我春日

午後十時五分水子島燈光ヲ左舷正横ニ望見ル

同 二十昔(吳港)

午前〇時五分回航ヲ申サス同三時六分商船ヲ左舷正横前約四里認

ム同七時四九分陸軍運送船鶴丸左舷ヲ通過ス十時五分十九号船

我右舷ヲ反航ス同十一時吳港ニ投錨

午後六時五分第二船渠入ル

同 二十六日(全)

午後三時十五分八重山入港

0049

同 平七日(全)

小銃射撃ヲ去

同 平八日(全)

午前七時八重山出港午後四時五十分西京丸入港同六時五十分太成丸港

同 平九日(異港)

小銃射撃ヲ去

同 平十日(全)

小銃射撃ヲ去

同 平十一日(全)

小銃射撃ヲ去

0050

六月一日(兵港)

野砲隊操練ヲ去午後五時半分英國商船リス出港

同 旨(全)

野砲隊操練ヲ去

同 旨(全)

糧食ヲ搭載ス

同 旨(全)

十二斤野砲及艇砲発射試験ヲ去

同 旨(全)

午後一時三十分出港直石炭ヲ搭載ス

同 六月(杵築)

漢

51

0051



午前三時十分石炭積方ヲ終ル同七時三七分出港正午頃風向漸次北  
転テ南ニ至リ其力漸加レテ乃至三時此時晴雨鍼ノ下降稍々甚ニシ  
降雨激甚霧之加リ透視困難ナリ午後一時四十分霧愈々濃厚ト  
ナル同四時五分右舷艦首約一里ノ小商船航行スヲ認ム同二時十分霧  
稍々散ジ牛島及佐賀之関ヲ認ム

午後三時三十分霧霽レザラ以テ杆築ニ投錨

同 七日(航海中)

午前七時七分出帆自差測定ヲ去午後四時四十分リ速力試験ヲ去

同 八日(全)

同 九日(全)

午前六時七分濃霧襲来午後三時七分霧漸多晴レ微・地平  
線ヲ認め同四時三分霧余多晴ル同八時五分濃霧南ニ艦尾方  
リ襲来ニ竟・前部ヲ透視レ得ザル至リ同十一時霧稍濃厚度  
ヲ増ス

同日(全)

午前一時五分霧稍ニ散同三分内ニ濃霧至ル同二時三分頃又沈  
間ヨリ三笠ノ無線電停感ズル空中電氣ノ為ノ大意ヲ解テ能ク同五  
時三分濃霧就キ航行危険ト認め投錨反泊

推測位置 北緯三八度三分  
東經百廿三度六分  
水深三寸身底質泥左舷錨鎖七節

午後二時四十分霧漸時南方多晴来ル同三分出航同時三分

0053

霧來襲漸濃厚尤然此青空見ル同午九分濃霧稍散不  
同九時五分霧漸次濃厚尤同四九分投錨後泊

推測錨位 緯度三十三度五分  
北緯三十三度四分

水深三四尋 底質砂泥 錨鎖五節

同 十日(航海中)

午前七時五分霧晴レ尤舷側ノ島影ヲ認ム島ノ位置及形状ヨリ  
外長山列島尤知ル依テ艦位ヲ計ルル如シ長子島ノ北東端北西  
ノ西端西大鶴子島ノ西端北ノ西端西ノ北東ノ北加東此ノ方位測  
依リ本艦濟州島ヨリ此地ニ到ル間ニ於テ北ノ海黒潮流ニ過ル  
ルヲ知ル、同十時出航同四十六分濃霧又到ル同午九分投錨

推測北位 緯度三十三度七分三十分  
經度百三十三度五分

0054

水深十八尋半 鋪鎖三節底質泥砂

午後一時五分霧稍薄、九艇艦首約四里、方向、岩礁ヲ認め後雨セ霧濃厚、花同三時五分頃ヨリ時々砲声ヲ聞ク、同七時霧余晴ル同十一時五分北西ノ北、掃海燈光ヲ認め同十五分霧未散、

同 十二日 (裏長山列島)

午前三時五分霧晴レ航、島影猶、燈光ヲ認め時、艦首方俱南、西リ同五時五分、航同三十分北方、水雷艇四隻ヲ認め、

六時十分右舷艦首、第六戰隊ノ裏長山列島ニ向テ見ル七時五分裏長山列島ニ投錨、同甲三分依余、第一、第二カッター下ニ掃海ノ準備ヲサシム

十日附丙隊械密第七七号ヲ以テ或ル冒險任務ヲ就カシ豫定ヲ以

0055



分臺北丸危険旗ヲ揚グ次デニ七分火災アリ救助ヲ要スル信号ヲテ、甲務  
ヨシキトシテ知レ消防隊ヲ流ス右將士七分分北丸危険旗ヲ下ス同三分  
チー区「カウ」ル帰艦本日聯合艦隊司令長官ヨリ尤ノ命令アリ

一 三隻ノ保管トシ八島ノ艦載水雷艇一隻ヲ其ノ艦ノ保管使用セム

ニ 右水雷艇ニ械水雷四個ヲ搭載落下スル装置ヲ施シ且之ヲ充  
ニ組乗員ヲ定メ置クベシ

本日第三艦隊司令長官ヨリ尤ノ命令アリ

春日艦長ハ八島ノ日進艦長、初瀬艦載水雷艇各一隻宛八島艦長ヨリ

受取保管スベシ

ニ 各艦載水雷艇ニ甲乙ニ組先ノ艇員ヲ編成シ之ガ操縦ヲ訓練スル同時械  
械水雷落下櫃ヲ製作シ置クベシ

0057

三春日進艦長、十二斤野砲實各二門分ヲ編成シ置陸上汎遣ノ準備ヲ要ス  
四春日艦長、右野砲隊中隊長ト大尉一名ヲ指名報告スヘシ

同 十四日(金)

午後七時五十分大連灣視察ノ為メ筑土大尉以下下士四名八重山使乗  
ス同八時三十分八島ノ艦載水雷艇ヲ受領シ來ル同十時濃霧來襲、  
本日第三艦隊司令長官ヨリ九ノ命令アリ

其ノ艦保管ノ艦載水雷艇ニ準備整モ次第大連灣回航シ吉島掃海  
指揮艦ノ令下ニ在リテ服務セムヘシ

同 十五日(金)

艦載水雷艇ノ修理ヲス、

下士一名車一名退艦病院船神戸丸ニ送ル

0058

本日大工計吉澤鶴共集合地港務部附転任旨告示あり。

同 十六日(全)

午前七時風雨稍烈なり虞り第一第二第三号沿岸ヲ警戒ス。

午前七時四方ノ雷閃々盛なり認め。

同 十七日(全)

午前三時雷光稍減ス。

午後七時雲分急雨来り雷鳴了。

全電光烈なり以テ無線電信垂直線ヲ下ス。

同 十八日(全)

午前八時五分旗信依リマシキヨシ及第三号四号山ヲ仰ニ軍装ヲシテ旗艦ニ送ル但シ當夜ノ哨艦ニ使用スル為メナリ暫時シテ各号山ノ掃艦ス。

0059



同 十九日(全)

大主計古澤鶴吉退艦台九ノ赴任ス

第三艦隊司令長官ヨリ九ノ命令アリ

三行野砲隊ノ編成ニ時解散スヘシ

聯合艦隊司令長官ヨリ第三艦隊司令長官ノ訓令ニ自ラ塩田灣ニ陸我

隊ヲ便宜引揚ケ更ニ重砲隊ヲ編成シ世昔迄ニ青泥窪ニ揚陸スヘシ云々

第三艦隊長官ヨリ九ノ訓令アリ

其艦分隊長海軍大尉高崎元彦ヲ聯合艦隊陸我重砲隊中隊長ト

シテ黒井同指揮官ノ令下入ラシム

夜入リ筑土大尉ノ一行帰艦ス

同 二十日(全)

0060

午前一時風力稍加元東方。電光頻り

終日砲術及水雷術練習ヲス

午後六時ヨリヨリ軍装シ哨艦ヲ旗艦三笠ニ送ル

同 二十一日(金)

午前五時五分昨夜三笠ニ赴キ元軍装艦帰艦ス

中村第三艦隊參謀長ヨリ元ノ通知アリ

仮装砲艦若クハ艦載水雷艇ノ指揮官等ヲ旅順外機械水雷

沈置シ赴クヲ志願ス將校ノ官職氏名至急御内報相成度以御申

進候也

右對答回答

御申越ノ希望者本艦將校職員ノ夫々大尉以下殆ダ全部有之

候得共船務、縁合都合有之時、多教難差、候義、付其御合、以  
之必要、官等、人負、御示、命、次第、本職、於、選、核、候、事、致、度、此、段、  
御内報、旁、及、御、回、答、候、也

午前砲術練習、午後体操、喇叭等、稽古、也

午後五時、甲五分、哨艇、ヲ、出、前、日、如、シ

午後十時、西風、漸、ク、強、シ

同 二十二日(金)

午前五時、甲五分、昨夜、哨艇、帰、艦、也

午前水雷練習、午後砲術水雷練習、ヲ、ナ、ス

第三艦隊司令長官、命令、ニ、曰、ク

二日、進、春日、鎮、遠、松島、及、金水、雷艇、隊、(通信艇、七隻)、旅、順、足、威

0062

嚇目的ヲ以テ明手午前九時出港ス

其大連灣口ニ至ル令依リ春日艦長之ヲ指揮シ戰隊哨島南方於  
テ不定ノ運動ヲ採リ水雷艇隊ヲ援護スヘシ

(以下畧之)

後又前命令中五項ニ変更ヲ加ヘシタリ曰ク

其大連灣前面ニ至ル令依リ鎮遠松島ニ豫定警戒配備就テ日進

春日遇岩附近於テ不定ノ運動ヲ採リ水雷艇隊ヲ援護スヘシ云々

高崎大尉重砲隊中隊長トシテ山城丸便乘大連灣向ス

台中丸ヨリ喉時乘艦ノ看護一名退艦ス

同日 三月三日(今)

午前四時半分旗信依リ出港用意

0063

今五時七分前進ヲ始ム

今八時五分監視中ニ八雲ヲ敵艦九隻旅順港外ヲ巡邏ス無線電  
信アリ

正午將校見張ヲトシテ置ク

午後一時五分過若ク航ドム約半澤見テ通過ス

同二時十分針路適宜旗艦ヲ通テ進ム時ニ九艦艦首ニ水雷艦一隊ヲ認

ム同二時五分敵島橋ヲ北々東々認ム

同二時三十分旅順方向ニ砲声數回ヲ聞ク

同三時〇八分西方旅順ノ方向ニ砲声頻リヲ聞ク

同三時五分南西變針ニ艦隊令依リ本隊右側ニ位置ス駆逐隊三隊艦

隊ニ隊北東ヨリ来リ本隊右側ニ位置ス此時第一隊亦東南ノ方向ヲ

0064

旅順ニ向ヒ本隊ニ近キ来ル

同三時三十分西北西鎮遠來艦ヲ認メ次グ其ノ砲臺ニ松島ヲ認ム

同三時半分旅順方向ノ砲声止ム八重山本艦ノ砲臺ヨリ四百米突位置ヲ取

同四時更ニ砲声ヲ聞ク右舷バウ約四百八雲及チ霧ヲ認ム

同四時三十分敵艦隊旅順ヨリ出フノ信号ヲ受ク

同四時三十分速舞ヨリ報告ヨリ戰艦五巡洋艦六隻港外ニ在リ

同四時三十分漸次速力ヲ増加シテ十節トス三艦附以外水雷艇驅逐隊

針路ヲ西ノ南ニ變針ス

同五時旅順港ヨリ數隻ノ敵艦隊ヲ認ム

同五時十分旗艦ヲ通跡ヲ進ム

同五時來敵我方向對シ排シ砲臺ノ彈着甚ク遠シ各砲彈集チ來

0065

宛ヲ増供ス

同五時三分速力ヲ漸次減ジテ十一哩トス

同五時四十分駆逐隊艦隊三隻近寄ル同時三艦隊附艦隊先側位置ス

同六時駆逐隊及艦隊三隻撃準備ヲナシ

同六時三分第弐隊合ス

同六時三分敵ヲ先艦隊先鉄山下ヲ南行スヲ認ム

同六時五分針路及転角ト旅順沖ニ向テ敵艦隊ヲ見ク先頭ト先弐隻巡洋艦六隻軍艦陣ヲ南行我艦隊ニ突進シ来ルヲ如シ

同七時三分戦闘旗ヲ掲グ

同七時五分戦闘部署ニ就カシム

0066

同七時三十分 旗艦ヨリノ信号ニヨリ皇國ノ艦隊以ニ戰ニ在リ各負一層奮  
勵努力セリ以時漸次速力ヲ増シテ十四海里トス

同七時四十分 測程儀ヲ揚グ航輪ヲカシジクシテ運用ス今時針路ヲ南  
西ニ変ズ

同七時五十分 敵艦先頭右回轉シ鮮生角方面ニ向フ

同七時五十分 三番ノ距離一才一才ヲ報ズ

同八時一分 駆逐艦隊ヲ辛ヒ又反轉シ同時敵艦盛ニ信号ヲ示シ

同八時九分 左八隻一齊回頭ヲス

同八時十二分 駆逐艦水雷艦隊敵ヲ追蹙シテ旗信アリ

同八時十五分 敵艦縦陣ヲ旅順以外ニ向ス其時敵艦隊ノ針路

同八時三十分 左八隻一齊回頭シ針路南西此時敵艦一島ニ向ス

0067



同八時三十分日没ス

同八時五十分駆逐隊水雷艇隊ハ進撃ヲ始ム第一隊五戦隊ハ拾六度針路ヲ変ジテ敵ト同行ス

同八時五分八重山本隊ノ後尾ニ位置ヲ取ル以時戦鬪旗ヲ卸ス

同八時五分東北東ニ定針 同八時五十分東北ニ変針

同九時五分右舷直哨兵ヲ配備シ警戒ス

同九時五分採順方向北東ニ當リ探海燈及砲火盛光ヲ認ム且砲声盛ルヲ聞ク

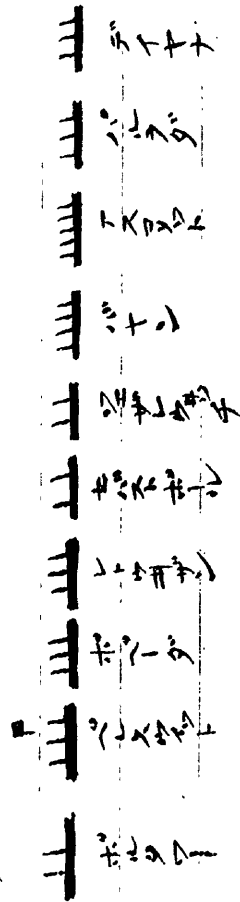
同七時五分砲声止ム然レ尚ホ探海燈光ヲ認ム

同七時五分再び砲声ヲ有シ暫然シテ聞ヘス

此時午後七時五分より七時五十分迄我艦隊ト敵艦隊ト同行セリ時敵

0068

陣形九ノ如シ



同

至晉(洋中)

午前時原速十節トス

同

時軍分針路ヲ北右東ニ変ス

同

時軍五分月没ス(西才南)

0069

同 三時七分針路ヲ西和北ニ変ス

同 三時十分西和北ノ方向ニ砲声ノ砲火及探海燈ヲ認ム三時五分砲火去

同 四時五分右舷艦首ニ砲声約十分間聞ク

同 五時八重山列外ニ出テ旅順方面ニ向ス

同 五時十分左舷艦首約二度ニ第三戦隊ヲ認ム

同 六時九舷艦首ニ砲声ヲ聞ク

同 七時五分旗信ニ依リ漂泊ス

同 八時十分第六十六号艦第五十号艦第五号艦第七号艦ニ炭水補給

ヲ為ス

午後三時十三分行針ヲ起シ進路適宜日進ニ追隨シ第三地奥ニ向ス

同 四時五分霧来襲ス直ニ十二所砲及十銃ヲ空放及海中標的ヲ用

0070

意ス

同 七時三十分左舷錨ヲ裏長山列島錨地ニ投ス

同 八時三十分大連湾ニ在リシ艦載水雷艇一艘ス

同 二十廿日(裏長山列島錨地)

午前八時五分運送船福井丸ヲ横付シ石炭枝載ラセ

同 十時三十分艦載水雷艇八隻旅順以外水雷沈置為各港天中八

隻ノ艦載水雷艇ノ乘員大炊御門中尉外下士卒十三名即チ本艦乗

員中ヨリ撰取セラルモノヲ發見シ艦ニ總負登艦礼式ヲス

午後一時十分石炭搭載了ル

軍裝艇ヲ旗艦ニ送ル從前ノ如シ

第三艦隊司令長官ヨリ九ノ令達アリ

0071

吉島掃海指揮官ノ令下ニ在リテ大連灣掃海事業ニ従事シ見下去年  
六本日附ヲ以テ特ニ善行章若ハ行状ヲ一級陞級セリトシ

同 二十日(全)

同 二十日(全上)

午前八時吉川中尉憲故少尉仮装砲艦ニ乗組ヲ命ゼシ出航ス總員登艦礼式ヲ  
行フ(十一号)

午後二時五分十四号仮装砲艦ノ搭載機械水雷一個爆發シ三個浮游ミ艦  
ルヲ認ム

午後四時五分艦載水雷艇與事取港ス

同 五時五分出港用意

0072

同 五時三十分起錨同五時四十分原速

同 六時十分南東才定針同六時五十分南右西變針同八時十分  
南右東變針同八時速力七哩

同 二十七日(洋中)

午前一時十五分北東左北變針云

同 一時七分南右西砲声ヲ聞ク

同 六時旗繼ノ通跡ヲ進ニ同八分南七十五度西變針

同 八時十五分因島ヲ北西左西四深キ見テ漂泊云

同 十時三十分雨到ル

同 午後四時三十分旅順方面ニ砲声ヲ聞ク

0073

同 七時十五分右舷錨ヲ長子島北方ニ投テ錨位西南西ニ南長子島  
北西端 南ノ東ノ東 長子島ノ東端 南島ノ東ノ東 大雀子  
島ノ南端 水深六尋半 底質泥 錨節四節

同 二八日(長子島)

午前一時三十分濃霧南東ヨリ來襲 隣艦ヲ見ル能ク

同 九時十五分霧稍々晴ル

午在二時霧少シク晴レ處ヨリ青空ヲ認ム

同 五時五十分霧漸ク深ク風力亦加リ晴雨計下降レ波浪高ク荒  
天ノ状ヲ呈ス

同 十時三十分時々月光ヲ認ルヲ得ク

0074

同 二十九日(全上)

午前一時霧復濃厚

午後一時晴雨計急上霧非常濃厚先続テ雨ナリ風ナリ雨止ハ霧止ル

同 三十日(全上)

午前一時十五分霧漸次晴レ他艦及島影ヲ認ム

同 二時濃霧復到ル

0075